

課題解決型高度医療人材養成プログラム 取組の概要と推進委員会からの主なコメント

テーマ②：医療チームによる災害支援領域

整理番号	7
------	---

申請担当大学名 (連携大学名)	熊本大学 (九州大学)計2大学
事業名	多職種連携の災害支援を担う高度医療人養成
事業責任者	医学部附属病院長 谷原 秀信
事業の概要	
<p>本プログラムでは熊本大学災害医療研究教育センターを設置し、九州大学歯学部と連携して、医師会、歯科医師会及び行政機関の協力を得て、超急性期～急性期の支援に加え亜急性期～慢性期で問題となる慢性疾患等を対象とした長期的視野で活動可能な医療チームを構成する多職種の人材（医師、歯科医師、薬剤師、看護師、栄養士等の医療職や行政担当者等）を育成する。</p> <p>プログラムは学校教育法第105条に基づく履修証明制度とし、熊本大学と九州大学が教育を分担し、チーム医療の講義、実習および訓練の一部は両大学が共同で実施する。</p> <p>災害時に実践的に対応する医療職とこれらを統率する行政職を育成し、チームとして派遣するシステムを構築するとともに、平時にも多職種による二次医療圏での連携の充実を図り近隣型防災拠点を整備し、さらに、九州内の広域相互支援に対応できる高度医療人を育成する。</p>	
推進委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等	
<p>○近々の災害経験に基づくプログラムの開発は具体性があり、実現性が高い。</p> <p>○教育プログラムは2コースであるが、対象者に応じた履修科目となっている。また、多職種人材、特に歯科特化コースがあることは独創性がある。</p> <p>○主に医師と歯科医師に特化して、その連携に基づいたプログラムの構築は画期的である。</p> <p>●実施体制において担当者がやや少なく、各担当者に負担が生じるのではないかと懸念がある。</p> <p>●熊本大学医学部のプログラムと九州大学歯学部のプログラムについて、十分な医科歯科融合となるよう工夫する必要がある。</p> <p>●大規模災害における医療支援の経験がある団体、DMAT、JMAT、DPATなどの教訓を学ぶようなカリキュラムが期待される。</p>	